

天井埋込形4方向吹出 据付工事説明書

PJF012D031

本説明書は、室内ユニットの据付け方法を記載しております。電気配線（室内ユニット）は、電気配線工事説明書をご覧ください。リモコンの取付け方法は、リモコン付属の説明書をご覧ください。ワイヤレスリモコンの取付け方法は、ワイヤレスリモコン付属の説明書をご覧ください。室外ユニットの据付け方法は、電気配線（室外ユニット）及び冷暖配管工事方法は、室外ユニットの付属の説明書をご覧ください。また、故障診断は、室内ユニットの取扱説明書をご覧ください。本室内ユニットは必ずパネル取付けてご使用ください。

安全上のご注意

- 据付け工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みの上確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は、**【重要】**、**【注意】**に区分していますが、誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものや特に**【重要】**の欄にまとめて記載しています。しかし、**【注意】**の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ここで使われる「図記号」の意味は右のとおりです。**【重要】**、**【注意】**必ず指示に従ってください。

●据付け工事後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法、お取り扱いの仕方、エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法などをお客様にご説明してください。●据付け作業は取扱説明書と共同にお客様が保管いただくようにお願いいたします。また、お使いになる方が代わる場合は、新しいお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

警告

- 据付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。
ご自分で据付け工事をされれば、水漏れや感電、火災、室内ユニット落下によるケガの原因になります。
- 据付け工事は、この取扱説明書に従って確実に実行する。
据付けに不備があると、水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 断熱材に据付けられる場合は、断熱材を破損させない。
断熱材を破損させると、断熱性能が低下し、冷暖配管の凍結や結露の原因になります。
- 設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。
指定の部品を使用しないと、室内ユニット落下、水漏れ、火災、感電などの原因になります。
- 作業中に冷暖配管が破損しないように注意する。
冷暖配管が破損すると、有害ガスが発生する原因になります。
- 据付けは、重量に十分耐えられるように確実に実行する。
強度が不足している場合は、室内ユニットの落下などにより、ケガの原因になります。
- 急降などの強風、地震に備え、所定の据付け工事を要する。
据付け工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。
- 室内ユニットの設置や移動の場合、冷暖サイクル内に指定冷暖以外の空気などを入れない。
空気などが混入すると冷暖サイクルが異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内務規程」及び据付け説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。
電気工事費不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用し確実に接続し、端子接続部ケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。
- 室内ユニット周辺の配線は、端子カバーが手や物に当たらないように整形し、カバーを確実に取付ける。
カバーの取付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。
- 据付け工事後、冷暖配管が漏れていないことを確認する。
冷暖配管が室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有害ガスが発生する原因になります。
- 配管、フレアナット、工具はR32用またはR410A用を使用する。
圧縮機（R22）の取付けは、圧縮機が冷媒サイクルの破損などの重大な事故の原因になります。
- フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締める。
フレアナットの締め過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。
- ドレン配管は有害ガスや有害物質の発生を防止するために直接入れない。
圧縮機が室内に漏れ、室内に有害ガスが発生する原因になります。また、室内機を腐食させ、故障や冷媒漏れの原因になります。
- 据付け作業中は圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付ける。
冷媒配管を取付けず、サービスマルプ開放状態で圧縮機を運転すると、空気を吸引し、冷媒サイクルが異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
- ポンプアップ作業では、サービスマルプを閉じた後配管を外す前に圧縮機を停止する。
圧縮機を停止しないままサービスマルプ開放状態で冷媒配管を外すと空気を吸引し、冷媒サイクルが異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
- オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取付けは専門業者に依頼する。
ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。
- 改修は絶対に行わない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。
修理に不備があると水漏れ、火災などの原因になります。
- エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に依頼する。
据付けに不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- エアコンの修理、点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ずOFFする。
点検・修理にあたって、電源ブレーカがONのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。
- パネルやガードを外した状態では、感電の危険がある。
感電の危険がある状態では、感電、火災などの原因になります。
- 元電源を切った後に電気工事を行う。
感電、故障や動作不良の原因になります。

注意

- アース（接地）を確実に行う。
アースは、ガス、水道、暖房、配管、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。
- 漏電遮断器は必ず取付ける。
漏電遮断器が取付けられていないと感電や火災の原因になることがあります。
- 正しい容量の全自動遮断するブレーカ（漏電遮断器、手元開閉器（明開機）B種ブレーカ）、配線遮断器を使用する。
ブレーカの容量が不足していると、感電や火災の原因になることがあります。
- 正しい容量のブレーカ以外を使用しない。
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 可燃性ガスの漏れのある場所への設置を行わない。
ガスが漏れる場合は、設置場所からの脱落によるケガの原因になることがあります。
- 断熱材（保温材）を破損させない。
断熱材（保温材）を破損させると、断熱性能が低下し、冷暖配管の凍結や結露の原因になります。
- 電気、高熱、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保してください。
スペースが不足する場合は、設置場所からの脱落によるケガの原因になることがあります。
- 洗濯室など、水の掛かる所では使用しない。
室内ユニットは水の浸入に対する保護はしていません。水が掛かると感電、火災などの原因になることがあります。
- 食品、動植物、精密機器、美術品の保存や特殊用途には使用しない。
食品、動植物、精密機器などの腐敗を発生する菌、高熱の発生する機器の近くでは据付け、使用しない。
- 病院、介護施設など、医療行為を行う施設、高熱の発生する機器の近くでは据付け、使用しない。
医療行為を行う施設、介護施設など、医療行為を行う施設、高熱の発生する機器の近くでは据付け、使用しない。
- 直射日光の当たる所に据付けをしない。
直射日光が当たる場合は、設置場所からの脱落によるケガの原因になることがあります。
- 次の場所への据付けは避ける。
・可燃性ガスの漏れのある場所
・煙突の煙が吹かせる場所
・燃焼器具（暖房器具、ガス、アルコール、アンモニアなど、ガス、アルコール、アンモニアなど、燃焼器具）の排気口が通る場所
・油の飛沫や蒸気が多い場所（調理場、機械工場など）
・化学物質、特殊なスプレーを頻りに使用する場所
・海や塩害が頻りに発生する場所
・湿度が高い場所
・性能を著しく低下させたり、部品が高熱、破損したりする原因になることがあります。
- 次の場所への室内ユニットの据付けは避ける。（機種により異なる別冊があるので、その指示に従ってください）
・吸込口、吹き出し口の周囲に障害物がある場所
・強風が頻りに吹く場所
・ワイヤレス機の場合、受光部に直接太陽光が強い光が当たる場所
・高周波に影響を受ける機器がある場所（TVおよびラジオ等の近傍）
・ドレンの排水がとれない場所
・性能や寿命に影響をおよぼす原因になります。
- 室内ユニットの下部は、濡れて得るものはかない。
湿度が80%以上の時は、ドレン排水が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じることがあります。
- 長期使用で備えられたままの据付け台を使用しない。
備えられたままの据付け台を使用すると、室内ユニットの落下などにより、ケガなどの原因になることがあります。
- 室内ユニットの近くで修繕作業を行う場合は十分注意し、室内ユニットからの落下の危険を防止する。
室内ユニットの近くで修繕作業を行う場合は十分注意し、室内ユニットからの落下の危険を防止する。
- 室内ユニットへの落下防止は、室内ユニットからの落下を防止する。
室内ユニットへの落下防止は、室内ユニットからの落下を防止する。
- 据付け工事は、取扱説明書に従って確実に排水するよう配管する。
不備な排水は、室内に発生し、害を生じることがあります。
- GHP（グリーンヒートポンプ）の室外ユニットの排水ドレン管と室内ユニットの排水ドレン管は共用しない。
室内に有害ガスが侵入し、中毒や健康被害を生じることがあります。
- 冷媒配管工事後は気密検査を行い、漏れの無いことを確認してください。
ガス、臭いなどが漏れればガスが漏れて冷媒配管の凍結や結露の原因になることがあります。
- ドレン配管は7/8インチ（171.0mm）以上とし、途中は急勾配を避け、また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。
試運転時にドレン排水が確実に排出されていることを確認する。また、経年・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。
- 冷媒配管の接続は確実に実行し、配管の強度を確保する。
不十分な接続は、ガスや油の漏れを生じ、感電や火災の原因になることがあります。
- 室外ユニットは、動物物や子供が触れるような場所に設置しない。
小動物が触ると、内部の電気部品に接触し、故障や発熱、火災の原因になることがあります。
- 製品の運搬は十分注意して行う。
20kg以上の重量は、2人以上で行ってください。PP（ポリプロピレン）など特定の材質以外をもって製品を動かさないでください。業者が運搬中に感電やケガをする場合がありますので保護具を使用してください。
- 梱包の処理は確実に実行する。
梱包材にケガをするような金属の鋭利な部分や、木片などを使用していますので設置状態にしますとケガをすることがあります。
- パネルに油、ゴミなどが付くと、故障の原因になることがあります。
- 濡れた手でスイッチを操作しない。
感電の原因になることがあります。
- 運転中の冷媒配管を素手で触れない。
運転中の冷媒配管は凍結により低温と高温になります。素手で触れると凍傷や、やけどになることがあります。
- エアコンを水濡れない。
感電の原因になることがあります。
- 運転停止後、すぐに電源を切らない。
必ず5分以上経過してから電源を切ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。
- 電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。
電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。
- 火災や水濡れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

1 据付け前

- この据付け前には、この取扱説明書に従って正しく行ってください。
- 次の項目を確認してください。
- 機種・電源仕様 ○配管・配線・小物部品 ○付属品

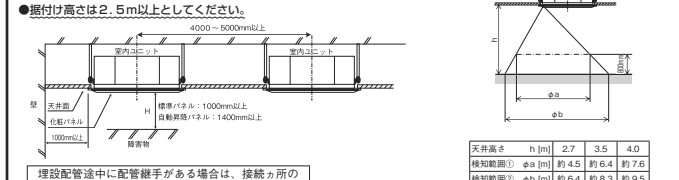
室内ユニット吊込み用		冷暖配管用		ドレン配管用					
平座金 (M10)	レベラゲージ 及び 平座金固定釘	パイプ カバー (大)	パイプ カバー (小)	バンド	パイプ カバー (大)	パイプ カバー (小)	ドレン ホース	ホース クランプ	抗菌材
8個	1個	1個	1個	4本	1個	1個	1個	1個	1個
吊りボルト用 位置調整が可能な 吊りボルト	室内ユニットの 位置調整が可能な 吊りボルト	ガス管 断熱用	液管 断熱用	パイプ カバー 固定用	パイプ ソケット 断熱用	パイプ ソケット 断熱用	ドレン配管 接続用	ドレン ホース 取付け用	ドレンパン 防汚用

2 室内ユニットの据付け場所の選定

- ①据付け場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
- 冷媒などは漏れが十分に行きわたる所。
据付け高さが3mを超えると暖気が天井にこもりやすいため、サーキュレータの併設をご指導ください。
- 据付け・サービス作業のスペースが確保できる所。
・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
・吸込口、吹き出し口の風が障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
・侵入外気の影響のない所。
・直射日光の当たらない所。
・周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80%以下の所。
- 本室内ユニットはIS露点条件(室内27℃/85%RH、天井裏32℃/80%RH)にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、室内ユニット周囲が上記条件以上の高湿度多量蒸気の状態であると水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、室内ユニットの全ておよび配管、ドレン配管に10~20mmの断熱材を取付けてください。
- テレビ、ラジオより1m以上離れた所。（映像の乱れや雑音が生じることがあります）
- 室内ユニット真下に食品、食器やパソコン、サーバー、医療機器など濡れて困るものを置かない所。
・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
・ワイヤレス機の電波が遮られる所。
・蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。
- ワイヤレス機の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなる場合があります。
それらを行う場所は室内ユニット重量に耐えられるかどうかを検討し、危険と思われる場合、桁等で補強して据付け作業を行ってください。強度不足の場合は、室内ユニット落下によるケガの原因になります。
- ③ワイヤレス機を2台以上据付けする場合は、通信による動作を防止するため室内ユニット間を6m以上離してください。
- ④室内ユニットを隣壁に設置する場合は、室内ユニット間距離を4~5m以上離して設置してください。

室内ユニット据付けスペース

- 室内ユニットと壁、室内ユニットと室内ユニット間など、間隔がとれない場合は、それぞれ側面出口を遮断しショートサーキットしないことを確認してください。

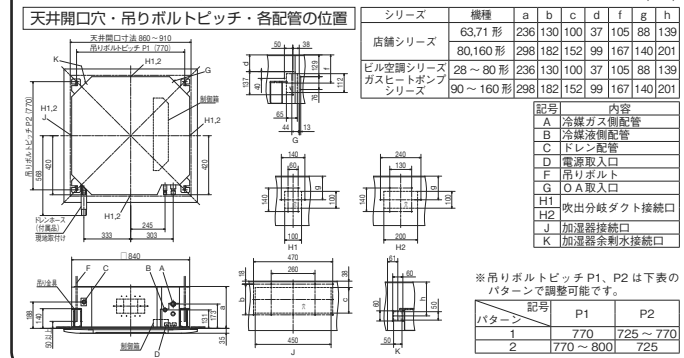


吹出方向の設定

- 部屋の形状や据付け位置に最適な吹出方向を4方向・3方向・2方向から選定してください。（1方向はできません。）
- 吹き出し角度を変更する場合は、別売の遠風機を手配してください。
- 2方向・3方向吹出の場合は風量（風速）で使用は避けてください。
- 高温・多湿環境での2方向吹出は行わないでください。（結露・水漏れの原因になります。）
- 吹出方向の上下位置の設定などによりさまざまな吹出パターンが設定できます。設定方法は取扱説明書をご覧ください。

3 据付け準備

- 吊りボルト長さが異なる場合は削磨補強を実施してください。
- システム天井（グリッド天井・ライン天井）の場合
吊り長さ（吊りボルト長さ）500mm以上又は天井高さより高さ700mm以上の場合に耐震プレートを設置してください。
- 吊り長さ（吊りボルト長さ）500mm以上又は天井高さより高さ700mm以上の場合に耐震プレートを設置してください。
- 吊りボルト・ナット・バネ座金 (M10 or M8) を4組現地で手配してください。



4 室内ユニットの据付け

- 作業手順
- 1. 吊りボルト長さは、天井面より50mm程度としてください。
- 2. 吊りボルトの側面ナット(4ヶ所)は、天井面から150mm程度に固定してください。
- 3. 吊りボルトの側面ナット(4ヶ所)は、室内ユニット吊込み及び高さ調整時に支障のないよう、側面ナットから10mm程度離れた位置に調整してください。
- 4. 吊りボルトの上側ナット(2ヶ所)と側面ナット(各4ヶ所)を下側ナットから十分な距離をとった状態で、産金固定材(※)を下側ナットに挿しこんでください。上側ナットは、側面ナットを挿しこんでください。
- 5. 室内ユニットを吊り込んでください。
- 6. 室内ユニット吊込み後、付属のレベラゲージ(※2)を室内ユニットの吹き出し口に取り付け、室内ユニットの吊込み高さを調整してください。高さ調整は上側ナット(4ヶ所)を緩めた状態で、側面ナット(4ヶ所)で調整してください。室内ユニット吊込み高さ(4ヶ所)を下側ナット、平座金に十分接触していることを確認してください。
- 7. 産金固定材(4ヶ所)を取り外してください。
- 8. 室内ユニットの水平度を確認してください。水平度は水準器または透明ホースに水を入れたものを使用してください。（室内ユニットの高さでの高さ調整は3mm以内です。）
- 9. 吊りボルトの上側ナット(4ヶ所)を取付けてください。

室内ユニットの養生

- パネルをしぼくの開口でけられない場合、または室内ユニットを据付けたい天井面に貼る場合は、梱包材(天面ダンボール)を使用して、室内ユニットを養生してください。

室内ユニット据付け時のお願

- 上側ナットで高さ調整を行わないでください。室内ユニットに無理な力がかかり変形し、パネルが据付けできなかったり、ファン音が発生することがあります。
- 室内ユニットは必ず水平に据付け、室内ユニット下面と天井面の高さを正しく設置してください。据付けに不備があると風漏れ、結露・水漏れ、騒音の原因になります。
- パネルと天井面、およびパネルと室内ユニットの高さの微調整ができます。詳細はパネルの据付け説明書をご覧ください。
- 室内ユニットの上下位置の設定などによりさまざまな吹出パターンが設定できます。設定方法は取扱説明書をご覧ください。

